

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	法人2施設の組織として、利用者の地域生活を包括的に支援できる強みを活かすべく、重点課題の克服に取り組んでいる
	内容	当施設の法人は、平成22年に2つの授産施設が合併したことに源を発し、平成27年にグループホーム事業を開始した。同じ法人で、住まいと日中活動のサービスがあることで、利用者の地域生活を仕事・生活の両面から包括的に支援できる強みを持っている。当施設では平成29年より、施設長交代が3度繰り返され、コロナ禍による利用の低迷も重なり、運営悪化に見舞われた。そうした苦難に対し、新施設長のもと、利用者支援の更なる向上のため、法人および法人関連施設（バックアップ施設）と手を取り、重点課題を明確にして、改革を進めている。
2	タイトル	利用者に意見を聞き、お誕生日会などのイベントの開催や移動支援を利用した外出など、利用者が生活を楽しむ取組みを行っている
	内容	月1回のお誕生日会や、利用者の誕生日がない月には利用者のリクエストに応えた特別メニューの提供など、グループホーム内で利用者が楽しめるイベントを実施している。これらのイベントでは、利用者が自由参加で準備段階から加わり、職員と共にイベントを開催している。また、複数の移動支援事業所と連携し、利用者の外出機会を増やす取組みに努力している。グループホーム内で支援を完結させず、利用者が外に出る機会を積極的に設け、地域のイベントへの参加などを通して、地域で暮らす意味を利用者に肌で感じてもらえるよう心がけている。
3	タイトル	利用者の障害は決して軽くはないのに、どこか自由でどこかな雰囲気を出している事業所になっている
	内容	管理者のパーソナリティの影響か、自由でどこかのどかな雰囲気が漂っている事業所である。事業所内の壁の至るところに何かしらの掲示物が貼ってある。決して秩序だったものではないが、それがむしろ、何か人を許容する自由な表現を浮き立たせている。例えば、トイレや居室の入り口には利用者が描いた拙いピクトグラムが場所の意味を伝えている。利用者や接する中で気づいたことのメモを壁面に貼り付けている管理者の姿もそこにある。壁をまるでキャンパスに見立てているかのように、ここに生活する人々のユーモラスな暮らしの魅力が垣間見られる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	グループホーム内の掲示物について、利用者向けと職員向けの情報を分けた上、より利用者に伝わりやすい掲示方法の工夫が望ましい
	内容	グループホーム内の壁面には、利用者の絵や作品が展示され、利用者へのお知らせや、職員向けの行動目標なども掲示されている。現在の展示や掲示はグループホーム全体を分け隔てのない自由な雰囲気になっている一方、利用者向けと職員向けの情報が混在し大切な情報が埋もれてしまうリスクもある。現在の自由な雰囲気を壊さずに、一部利用者向けと職員向けで掲示を整理する工夫ができると良い。特に、障害に配慮し、利用者にとってわかりやすい掲示方法や、情報発信の工夫、掲示場所などにも、更なる配慮をすることが望ましい。
2	タイトル	紙書類からの脱却を図り、情報共有のため、世代交代も視野に入れた、デジタル化への歩みを前に進めて欲しい
	内容	情報管理を中心としてデジタル化への歩みを進めて欲しい。事業所内の書類の多くは紙ベースであり、手書きの記録が多くを占めている。これは本事業所ばかりの話ではなく、法人全体でデジタル化への取り組みが遅れている。そのことが情報共有に足枷となって現れており、同じ法人の通所事業所と利用が重なっている利用者が多いにも拘わらず情報共有には課題も見られ、より一層利用者の利益に繋がる共有が期待される。法人内にはデジタルの精通している若い職員もおり、今後世代交代と絡めてデジタル化への歩みを法人をあげて取り組んで欲しい。
3	タイトル	地域に密着した法人の施設と、利用者情報や課題を共有し、具体的な連携の仕組みをつくり、利用者支援の充実に努めてほしい
	内容	今年度より、法人合同の事業報告会や合同研修を開催し、共通する方針の確認や現状や課題、気づきの共有が行われている。日中活動の事業所は、当施設のバックアップ施設の位置づけがあり、様々な連携が求められる。共通する利用者については、日々の情報共有はその土台となるものであり、着実に必要な情報のやりとりを成立させたい。また、夜間の対応や、送迎時や通院時の支援、災害などの緊急時については、バックアップ施設からの応援体制も整備の必要がある。"利用者支援の充実"ため、相互の存在意義を高める"連携"を見出してほしい。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-3-1	定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している
タイトル①	利用者毎の支援マニュアルがあり、時系列で毎日の支援項目を記し、役立っている	
内容①	この事業所がユニークなのは、一人ひとりの個別支援計画を下敷きにした利用者一人ひとりに特化した支援マニュアルがあることである。同支援マニュアルは、個別支援計画と一般的な業務マニュアルを取り結ぶものであり、業務マニュアルでは記すことができないその利用者だけの特徴・注意点等が書かれてあり、毎日の支援内容が時系列で明示されていて、いつどのタイミングで支援が必要かを職員がすぐに認識できるようになっている。同支援マニュアルは公務室のすぐ手の届く場所に置かれており、思いついたらすぐに確認できるようになっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	利用者の状況に応じて、生活上の支援を行っている
タイトル②	徹底した衛生管理と室内の清潔な環境整備により、利用者の快適な生活を維持している	
内容②	グループホームは、利用者の居室や共用部分など、室内全般や敷地内を清潔に保つことに力を注いでいる。利用者の居室の衛生状態を毎日職員が確認し、ベッドメイキングや掃除機がけ、整理整頓、衣類の洗濯などを行っている。以前は室内共有部分の床に衛生的な課題がある点も見られたが、毎日床消毒を継続して行った結果、現在は清潔な状態が保たれている。床消毒は引き続き実施している。グループホームでは、利用者が清潔な衣服を身に着け、清潔で気持ちの良い空間で暮らしていけるよう、日々清掃や洗濯を行って環境整備に力を注いでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-2	利用者が主体性を持って日常生活を楽しく快適に過ごせるような取り組みを行っている
タイトル③	利用者の心身の健康の土台として、自調理を継承し、美味しく楽しい食事を提供している	
内容③	当施設の運営には、古くから法人の活動を知る地域の人材が少なからず関わって来た。前任の調理士もその一人であり、プロとしての手を抜かない丁寧な食事づくりと美味しさは多くの保護者、利用者に支持された。以来、施設では自調理方式を継承している。新たに着任した管理栄養士も、その方針を受け継ぎ、月に一度は利用者の意向を聞いて、利用者の体調や嚥下機能にも配慮しながらお好みのメニューを手作りで提供している。誕生会には、全員に焼き立てケーキを提供するなど、日常の生活に潤いをもたらしている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	お誕生日会などのグループホームイベントにショートステイ利用者も参加し、共にイベントを楽しむことができる
	内容	ショートステイはグループホームの中にあり、グループホームでは月1回のお誕生日会など利用者が楽しめるイベントを実施している。これらのイベントでは、グループホーム利用者も自由参加で準備に加わり、職員と共にイベントを作り上げている。ショートステイ利用日にこういったイベントがあれば、ショートステイ利用者もグループホーム利用者と共にイベントに参加し、調理担当職員の手作りケーキや特別メニューなどを一緒に楽しむことが可能である。
2	タイトル	利用者の障害は決して軽くはないのに、どこか自由でのどかな雰囲気を醸し出している事業所になっている
	内容	管理者のパーソナリティの影響か、自由でどこかのどかな雰囲気が漂っている事業所である。事業所内の壁の至るところに何かしらの掲示物が貼ってある。決して秩序だったものではないが、それがむしろ、何か人を許容する自由な表現を浮き立たせている。例えば、トイレや居室の入り口には利用者が描いた拙いピクトグラムが場所の意味を伝えている。利用者や接する中で気づいたことのメモを壁面に貼り付けている管理者の姿もそこにある。壁をまるでキャンパスに見立てているかのように、ここに生活する人々のユーモラスな暮らしの魅力が垣間見られる。
3	タイトル	支援に関わる職員の主体的な気づきを重視し、人権尊重した支援を目指して法人施設合同の研修会をリードしている
	内容	当施設には、同法人で日中活動支援を行う事業所があり、利用者が一部重なっていることから、常日頃の情報共有や連携が欠かせない。当施設では法人への提案を行い、今年から利用者支援に関わるテーマで合同の研修会を開催している。支援に関わる職員の主体的な気づきの共有が重要であると考え、利用者支援に関わる職員の気づきや考えを広く上げ、意見を安心して出し合える組織づくりが進展している。まずは、常勤職員を対象に、徐々に参加者を拡げたい考えを持っている。職員調査の結果でも変化の兆しが確認された。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	ショートステイがあるグループホーム内の掲示物について、利用者向けと職員向けの情報を分けて掲示場所を工夫することが望ましい
	内容	グループホーム内の壁面には、利用者の絵や作品が展示され、利用者へのお知らせや、職員向けの行動目標なども掲示されている。現在の展示や掲示はグループホーム全体を分け隔てのない自由な雰囲気にしている一方、利用者向けと職員向けの情報が混在し大切な情報が埋もれてしまうリスクもある。現在の自由な雰囲気を壊さず、一部利用者向けと職員向けで掲示を整理する工夫ができると良い。特に利用者向けの情報については、利用者に対してより明確に情報発信するためにも情報を整理して掲示することが望ましい。
2	タイトル	紙書類からの脱却を図り、情報共有のため、世代交代も視野に入れた、デジタル化への歩みを前に進めて欲しい
	内容	情報管理を中心としてデジタル化への歩みを進めて欲しい。事業所内の書類の多くは紙ベースであり、手書きの記録が多くを占めている。これは本事業所ばかりの話ではなく、法人全体でデジタル化への取り組みが遅れている。そのことが情報共有に足枷となって現れており、同じ法人の通所事業所と利用が重なっている利用者が多いにも拘わらず情報共有には課題も見られ、より一層利用者の利益に繋がる共有が期待される。法人内にはデジタルの精通している若い職員もおり、今後世代交代と絡めてデジタル化への歩みを法人をあげて取り組んで欲しい。
3	タイトル	ショートステイについては、コロナ禍を経て、今後の位置づけを確認し、今後の利用環境の改善を図ってほしい
	内容	ショートステイについては、2ユニットのうち、1床を当てており、先月10日までの予約によっている。現状では、利用者は限定的であり、利用日数も月3日～17日と稼働日数を高める工夫が必要である。ショートステイがグループホーム入所希望者の練習として利用できる面はよいが、女性棟にあるため、男性の利用希望の受け入れの難しさなどは課題である。これまで契約期間の設定が無期限となっており、そのことにより、利用対象者の把握、利用登録者の管理がしづらい状況となっていることから、名簿管理の仕組みは、整えて行きたい。

事業者が特に力を入れている取り組み①

評価項目	6-4-2	利用者の主体性を尊重し、利用中の生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている
タイトル①	利用者が快適に宿泊できるよう、衛生管理や室内の清潔な環境整備に力を入れている	
内容①	ショートステイのあるグループホームは、利用者の居室や共用部分など、室内全般や敷地内を清潔に保つことに力を注いでいる。ショートステイ利用者の居室は毎日職員が確認し、掃除機がけやその他の清掃、整理整頓などを行っている。グループホーム内の共有部分の床は、以前は衛生的に課題のある点が見られたが、毎日床消毒を継続して行った結果、現在では清潔な状態が保たれている。床消毒は今も継続的に実施している。ショートステイ利用者が気持ちの良い清潔な空間で過ごせるよう、清掃に力を入れ環境整備に力を入れている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②

評価項目	6-4-6	地域で自立した生活を送れるよう支援をしている
タイトル②	働く家族の強い味方であり、一人暮らし・GH体験ができる絶好の機会を提供している	
内容②	両親ともに就労する機会が増えており、それに伴いレスパイト利用が多くを占めている。利用は事前に利用契約を取り結ぶことが条件ではあるが、実際の利用は電話で予約をとる形となっており、面倒な手続きは要らない。定員は2名で枠は少なく空きがないことも多いが、利用の必要が生じれば手軽に相談できる。働く家族にとっては強い味方である。食事はグループホームといっしょで、グループホームの利用者と同じ食卓を囲み、交流も体験できる。そのため、将来に向けて一人暮らしやグループホームを検討する利用者には良い体験ともなっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③

評価項目	6-4-2	利用者の主体性を尊重し、利用中の生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている
タイトル③	利用者の心身の健康の土台として、自調理を継承し、美味しく楽しい食事を提供している	
内容③	当施設の運営には、古くから法人の活動を知る地域の人材が少なからず関わってきた。前任の調理士もその一人であり、プロとしての手を抜かない丁寧な食事づくりと美味しさは多くの保護者、利用者に支持された。以来、施設では自調理方式を継承している。新たに着任した管理栄養士も、その方針を受け継ぎ、月に一度は利用者の意向を聞いて、利用者の体調や嚥下機能にも配慮しながらお好みのメニューを手作りで提供している。特別なイベント時は全員に焼き立てケーキもあり、日常の生活に潤いをもたらしている。	